



学校だより

7月号

横浜市立大道小学校
平成29年6月30日

学校ホームページ：[横浜市立大道小学校](#)

検索

校長 富岡 正雄

【KY】の意味をご存知ですか？

今から10年前、「空気が読めない」という意味で表され、流行語になりました。最近では、別の意味でよく使われます。それは、【KY】＝「**危険、予知**」です。

「危機管理の重要性」という言葉をよく耳にするようになりました。学校も各種危機管理能力を高めていかなければなりません。

今月の学校だよりでは、「危機管理」についての考え方や取組状況について紹介します。

「リスク・マネジメント」と「クライシス・マネジメント」

「リスク・マネジメント」(事前の危機管理)

危機的状況に直面する前に、その危機を回避・軽減するために、日頃から行う対処法のこと。

「クライシス・マネジメント」(事後の危機管理)

危機的状況に直面した時に、その被害を最小限に抑えるために行う対処法のこと。

学校は、子どもたちが安心して学ぶことができる安全な場所ではなくはなりません。事件や事故、災害は、いつ・どこで・誰に起こりうるか予測することが困難な場合がありますが、それに備えて、日頃から危機的状況の発生を防止したり、被害を軽減したりするための活動を行っています。特に、最近では、早期に危険を発見し、その危険を確実に除去することやその危険の可能性を小さくする【未然防止】に力を注ぐようになってきています。

本校での具体例として、主なものをいくつか紹介します。

- ・交通安全教室を実施し、安全な歩き方や自転車の乗り方を学ぶ。
- ・学校内外の組織や関連機関の方々と「スクールゾーン対策協議会」を開き、学区の交通安全の精度を行政レベルの視点を含めて高める話し合いを行う。
- ・学区の町内会や団体の方々に、見守り隊として登下校の安全のために力をいただく。
- ・教職員全員で、施設や設備の安全点検を毎月実施し、危険箇所があるか確認する。
- ・職員の危機管理意識を高めるために、職員研修を行い、重要な点を共通理解する。
- ・学校保健委員会で、テーマを決めて話し合い、日々の生活に活かす。

また、【KYT】という言葉も耳にします。この言葉は、「**危険、予知、トレーニング**」の意味で、日頃から訓練として行うものです。例えば、避難訓練（火事・地震・津波等）や児童引き取り訓練などがそれにあたります。

「危機管理」について、教職員の意識を高めていきます

・けがをした児童の対応の仕方 ・体調を崩した児童の対応の仕方
・食物アレルギー（給食）の対応の仕方 ・嘔吐した時の緊急対応の仕方等、
いろいろなケースを想定し、マニュアル等を活用しながら進めています。現在、一部マニュアルの見直し、改善を進めています。

各種対応について共通理解をしていますが、マニュアルがあっても、緊急時に、慌てたり、急いでいたり、自分一人しか近くにいなかったり等、正確で適切な判断ができなくなる可能性があります。私を含めて、「いざという時に、落ち着いて、しっかりとした対応がとれる」ように、意識の面でも行動の面でも、日々、声を掛け合って、協働意識をもって取り組んでいきます。これからも、学校・家庭・地域の皆様の連携を大切に、子どもたちの安全・安心につながるように頑張っていきます。